

# 13. ヨーロッパ古典 ほか

## 邦 訳 図 書 シ リ ー ズ

パウサニアス 著 (AD2C) / 飯尾都人 訳編  
すいせん 久保正彰、福部信敏、藤澤令夫、藤縄  
謙三、松平千秋、三浦一郎、矢守一彦、  
山口昌男

パウサニアス

ギリシヤ記  
全2巻

ISBN 978-4-8447-8333-6

A5判・総1,170頁

本体価22,000円

西欧文明不朽の源泉、それは古代ギリシアである。そのギリシアが一千年近くにわたり築き上げた文化財を、ギリシア滅亡寸前の2世紀に生きたパウサニアスは、そのほとんどすべてにわたって描写解説を加えながら一つの旅行記風の記録として「ギリシア記」を遺した。彼はアテネ・オリュンピア・デルポイの大遺跡はもとより、大小250余のポリス、村落に至る迄足を踏み入れ、その他の神域・神像・祭祀の由来や現状を書き記した。本書は近代ギリシアの遺跡発掘はもとより、美術・文学・宗教・民俗・歴史等の分野に貴重な数多くの資料を提供し、当時の多くの奇談秘話をちりばめて読み物としての楽しさも狙っている。本邦初の全訳刊行。詳細な訳注・解説付。訳者の8年余にわたる労作である。  
(91・1刊)

### 収 録 内 容

#### 第1巻 (原書全10巻)

- 1巻 アテナイ
- 2巻 コリントスとアルゴリス地方
- 3巻 ラコニア
- 4巻 メッセニアの各地方
- 5巻 オリュンピア
- 6巻 オリュンピア

- 7巻 アカイア
- 8巻 アルカディアとペロポネソス半島
- 9巻 ボイオティア
- 10巻 デルポイ

#### 第2巻

訳注・索引・解説篇

飯尾都人 訳  
すいせん 中務哲郎、橋本隆夫、長谷川博隆、  
藤澤令夫、藤縄謙三、前田耕作

ストラボン  
**ギリシャ・ローマ世界地誌**  
全2巻

ISBN 978-4-8447-8377-0  
A5判・総約1,600頁＋地図150点 本体価35,000円

パウサニアス「ギリシア記」と共に、ギリシア古典史の地誌の双璧ともいべき名著全17巻（原典）の本邦初全訳。ヨーロッパ・アジア・アフリカの三大陸に及び、西暦1世紀前後の世界帝国ローマが認知し得た限りの世界地理を豊富な資料をもとに幅広く記述。地理記述の歴史と方法をテーマとした2巻と「人の住む世界」を三大陸に分け、統一した順序で説明する15巻とから成る。「ギリシア記」をギリシア古典における地域誌の精華と称するとすれば、本書は世界地誌として、まさしく百花繚乱の園に比するにふさわしい壮大な古典であり、古典古代世界について、様々な研究分野での情報の無比の宝庫である。本書では150枚（94・7刊）

に上る詳細な地域図を挿入するという極めて困難な作業も敢行した。

収録内容

- 第1巻 ホメロス詩の地誌的解釈と地形変化成因論  
第2巻 人のすむ世界の測定と区分の実際及び世界地図の作成と概要

ヨーロッパ

- 第3巻 イベリア／第4巻 ガリア／第5巻 北・中部イタリア／第6巻 南部イタリアとシケリア島／第7巻 ギリシア以北の世界／第8巻 ペロポネソス／第9巻 ギリシア本土東部とテッサリア／第10巻 ギリシア本

土西部とクレタ島

アジア

- 第11巻 北方アジア／第12巻 黒海南岸とその内陸／第13巻 トロイア地方とその周辺／第14巻 イオニア地方と小アジア地中海沿岸／第15巻 東方アジア／第16巻 中東アジア

アフリカ

- 第17巻 リビュア

ディオドロス、ボンポニウス・メラ、プルタルコス等 著(前1世紀)  
飯尾都人 訳 ●解説、訳注、索引付  
すいせん 青柳正規、塚田孝雄、中務哲郎、  
藤澤令夫、藤縄謙三、前田耕作

ディオドロス  
**神代地誌**

ISBN 978-4-8447-8472-2  
A5判・1,000頁 本体価25,000円

シケリア島生まれのディオドロスは、その著「プリオテーカー」（世界史）40巻のうち、最初の6巻を特に「アライオロギア」と名付けた。本書には先ず、この6巻（うち第6巻は断片）の訳を取める。これらの巻のなかで著者は、従来の神話を人類文明の展開史の反映と前提した上で、諸民族の神話を解釈し直し、合わせて、以下の歴史展開の舞台となる世界を、いくつかの地方や諸族ごとに、地誌的に概説して行く。なかでも、巻1 エジプト誌は、神話、歴史、習俗の諸分野にわたって詳細な記述を含み、巻3の未開諸族誌は、ストラボン地誌と同一資料に拠りながら相補的な記述を残している点で貴重であり、巻5 島嶼誌は地誌

の枠組みのなかで神話を物語るという特異な構想を立てる。

本書にはまた、ラテン語による地理書として周知の肝要の書ボンポニウス・メラ「世界地理」と、ローマ世界に広がったエジプトのイシス信仰についての優れた紹介と批評を含むプルタルコス「イシスとオシリス」をも収める。（99・6刊）

収録内容

- ディオドロス「神代地誌」  
第1巻前篇 エジプト誌  
第1巻後篇 エジプト誌・続  
第2巻 アジア誌  
第3巻 エリュトラ海沿岸諸族誌とリビュア神話  
第4巻 ギリシア神話

- 第5巻 島嶼誌  
第6巻 ギリシア神話（断片）  
ボンポニウス・メラ「世界地理」  
第1巻 アフリカとアジア  
第2巻 ヨーロッパ  
第3巻 三大陸のオケアノス大洋沿岸  
プルタルコス「イシスとオシリス」

竹島俊之 訳  
 すいせん 塚田孝雄、中井久夫、長谷川博隆、  
 前田耕作

ポリュビオス

# 世 界 史

## 全 3 卷

揃本体価40,000円

**第 1 卷** ISBN 978-4-8447-5486-2

A5判・604頁 本体価15,000円

**第 2 卷** ISBN 978-4-8447-5487-9

A5判・508頁 本体価13,000円

**第 3 卷** ISBN 978-4-8447-5488-6

A5判・506頁 本体価12,000円

ローマの将軍スキピオがカルタゴとの抗争を通して世界制覇を成し遂げた興隆期の、そして共和制全盛時代のローマを描いた作品。I部は第一次ポエニ戦争、備兵戦争などを描いた第1巻、アカイア同盟成立時代のギリシャの情勢を記述した第2巻、第二次ポエニ戦争の開始、ハンニバルが象を率いてのアルプス越え、カンネーの会戦などを描いた第3巻、同盟戦争を描いた第4巻・第5巻、ローマの国制、軍事組織、リュクルゴスの法典を説明した第6巻を含む。以下、II部第7巻—第18巻、III部第19巻—第39巻に分けてウォールバンク『ポリュビオスの歴史的な注釈書』に依拠しながら詳しい脚注を加えてギリシア語原典からの「直接全訳」が初めて完成。興隆するローマがやがてヘレニズム世界を呑み込んで行く壮大な世界史のうねりが、英雄群像活躍の舞台を一本の歴史線上に結びつけ、日本語で語られる。

解題、訳注、索引、ヘレニズム世界地図及び地図索引付。  
 (’07・7 刊)

古典はいにしへの聖賢や文豪たちの住む壮麗な宮殿であって、万人のために開かれている。たまたま前を通りかかってその苑囿の美を見、ここを訪れようとする人は、だれでも広い門を過ぎて立派な客室に通され、希望する賢人、高士に面会することができる。

翻訳もしくは対訳という「通訳」を利用すれば、彼らはその蘊蓄を傾けて、何時間でも親切に相手になってくれるだろう。これによって得られる面会者の利益は量り知れない。釈迦やイエスの教えも翻訳という「通訳」によって東西に伝えられたのである。

しかしこの宮殿に住み、苑囿を逍遙する古人のことばを直かに聴き、その滋味を味わおうとすれば、それに対応した心構えと準備が必要となる。古人の述べる清澄な論旨を素直に汲み取り、話のひだに潜む面白さを感じ、話者の心の微妙な動きや、流暢さと渋滞を鋭く嗅ぎ分ける稽古を前以てしておかねばならない。また及ばぬまでも古人と同じ立場に立とうとする心構えも欠くことができない。

このたび刊行を開始する『西洋古典叢書』は上のような研究者が遙かな遡源を日夜願いながら、古書の入手難、図書館の不備などのために、心ならずも現代の欧米学者が校訂・編纂して、赤、青、黄などの表紙をつけたテキストや対訳本を繕くのみで——もちろん便利で卓越したものが多いが——これまで利用できなかった初版、古刊本、古注などの良心的な復刻であり、研究者多年の渇をいやすことを目指している。上はホメロス、ウェルギリウスなど希羅の古典から、下は中世、ルネサンスの稀観書に及ぶ。いずれも詳細な解題、関係書誌を添付し、利用者の便宜を図るので、古典学にとどまらず、思想家、地理、民族、説話、博物などの研究者にとっても大きな福音となることであろう。

① Plutarch, The Lives of the noble  
Grecians and Romans,

London, 1603. Folio, translated by Sir Thomas  
North

ノース英訳

『プルターク英雄伝』  
全2巻

ロンドン、1603、二つ折り判

ISBN 978-4-8447-5354-4

A4判 1,390頁・解題46頁 計1,436頁 本体価65,000円

シェークスピアが愛読して、『ジュリアス・シーザー』や『アントニーとクレオパトラ』の材料とした刊本と同種のもので、わが国の英文学者が是非1部を座右に置きたいと望む稀観書。このノース(c. 1535-1601)訳は、1559年に出たアミヨ(Jacques Amyot 1513-1593)の有名な仏訳から重訳したもので、初版が1579年、2版が1595年、3版が1603年に出ているが、エリザベス一世治下の英国勃興期に特有の精気に溢れた名訳である。本書は15世紀に完成したラテン訳の伝統を受け継ぎ、ギリシア原文には含まれていない「ハンニバル」や「シャルマーニュ」の伝記も載っている。カイロネア生まれのギリシア人プルタルコス(Plutarchos, c. 46-120 A.D.)はアカデミア派の哲人で、ギリシアとローマから一対ずつ人物を選び、約50人の『対比列伝』を作成した人として知られている。

『列伝』の中の対比人物としてはアレクサンドロスとカエサル、デモステネスとキケロ、ペリクレスとファビウスなどが名高い。

ギリシア原文は当時の日常の文語文で、ベリオドが長く、歴史家トゥキュディデスの簡勁にして豪宕な文体とは大いに異なっており、やや平板なきらいはあるものの、温和で悠揚迫らぬ人柄が滲み出ている。

後世に与えた影響は非常なもので、中世、ルネサンス、近代のいずれの時期にも多くの人々に愛読された。(‘93・5刊)

- ②Giambattista Basile, *Il Pentamerone*  
(*Lo Cunto de li cunti*),  
Napoli. 1645. 13.5cm×7cm.

バジレ

『ペンタメローネ』  
(五日物語)

ナポリ、1645年、13.5cm×7cm、(伊文)

ISBN 978-4-8447-5355-1

A5判・本文660頁+訳、梗概、解題300頁

本体価35,000円

第1日(鬼の話、ミルテの木、ものぐさベルオント、抜け作ヴァルディエロ、蚤、シンデレラ、石投げチェンツォ、山羊顔姫、魔法にかけられた鹿、皮を剥がれた老婆)、第2日(鬼女のために塔に閉じ込められたペトロシネラ、ヴェルデプラト王子、姉たちにいじめられたヴィオラ、猫のおかげで紳士になれたガリウゾ、大蛇、雌熊、鳩、奴隷にされたりザ姫、錠前、悪しき隣人)……というような具合である。

(‘94・7 刊)

- ③Homerus, *Iliad*, Villoisoni.

Venet. 1788, Folio Gr.

ホメロス

『イリアス』  
ヴィロアゾン版 全2巻

ヴェネツィア、1788年、二つ折り判、(希文)

ISBN 978-4-8447-5356-8

A4判・本文716頁+解題304頁

本体価100,000円

ロアゾン版の1本を秘蔵していたが、太平洋戦争中に晩翠草堂が被災した際、惜しくも焼失した。

『イリアス』とは、「イリオン(トロヤ)の歌」という意味で、ギリシアの軍勢が10年にわたり、小アジアの都城トロヤを攻圍した時の出来事を歌ったものである。

(‘00 刊)

- ④Homerus, *Odyssea*, Barnesii.

Canab. 1711, 4to 2vol. Gr. et Lat.

ホメロス

『オデュセイア』  
ジョシュア・バーンズ編 全2巻

ケンブリッジ、1711年、四つ折り判、(希羅対訳)

ISBN 978-4-8447-5357-5

B5変型判・本文846頁+解題224頁

本体価75,000円

多くの求婚者を殺し、王権を回復する物語であるが、わずか41日の出来事として、速いテンポで劇的に構成されている。

(‘97・5 刊)

本書はナポリ総督G. バジレ(c. 1573~1632)がナポリ方言で綴った物語で、ストラパローラの『楽しい夜々』とともにヨーロッパ最古の包括的民話集であり、後世のペロロやグリム兄弟に大きな影響を与えた。ベンザー(N.M. Penzer)英訳(1932)第2巻所収の「書誌」によれば、この1645年版は英国で1部、イタリアで3部がわずかに記録されているだけという超稀覯本であるが、今回の覆刻に当っては、幸い入手し得た2部を用いた。50話の内編者により、20話邦訳、30話梗概紹介が為され、解題を含め全300頁の和文が加わった。

【ペンタメローネの内容】5日間50話から成る「粹物語」で、ボッカッチョの『デカメローネ』、アラビアの『千夜一夜物語』、ソマデーヴァの『カター・サリット・サーガラ』などと同じ形式をとる。

【ペンタメローネの内容】5日間50話から成る「粹物語」で、ボッカッチョの『デカメローネ』、アラビアの『千夜一夜物語』、ソマデーヴァの『カター・サリット・サーガラ』などと同じ形式をとる。

(‘94・7 刊)

フランスの古典学者ヴィロアゾン(Jean Baptiste Gaspard d'Ansse de Villoison, 1753-1805)が、ヴェネツィアの聖マルコ図書館に秘蔵されていた10世紀の写本Venetus Aの本文と古注を忠実に印刷したもので、学者の垂涎して止まない稀覯本。

ヴィロアゾン自身の序説も優れたものであったが、ドイツの古典学者ヴォルフ(Friedrich August Wolf, 1759-1824)は、この『イリアス』を精査研究した上、名高い『ホメロス序説』(Prolegomena ad Homerum)を1795年に発表し、古来のホメロス問題に対して新しい史眼による分析を行ない、古典研究に革新をもたらすことができた。わが国ではじめて『イリアス』および『オデュセイア』の韻文による全訳を完成した土井晩翠は、かつてこのヴィ

ロアゾン版の1本を秘蔵していたが、太平洋戦争中に晩翠草堂が被災した際、惜しくも焼失した。

『イリアス』とは、「イリオン(トロヤ)の歌」という意味で、ギリシアの軍勢が10年にわたり、小アジアの都城トロヤを攻圍した時の出来事を歌ったものである。

(‘00 刊)

オクスフォード大学ギリシア文学欽定講座教授であったジョシュア・バーンズ(Joshua Barnes)編になる刊本である。ギリシア語本につけられたラテン語訳と充実した古注は読解上、大そう便利であり、また近代諸国語による注解や翻訳などに散見する誤謬をしばしば訂正してくれる。

なお末尾に、ホメロス作と伝える『蛙鼠戦役』と『ホメロス風讃歌』を付載する。『オデュセイア』は「オデュセウスの歌」の意味で、1万2千行の叙事詩であり、トロヤ落城ののち、ギリシア軍第一の智謀の士、オデュセウスが10年に及ぶ漂泊と冒険をかさねたあげく、ようやく故郷のイタカ島に帰り着き、妻のペネロペイアに多年しつこく言い寄り、資産をわがもの顔に食いつぶしていた多

(‘97・5 刊)

以降、中止

塚田孝雄 編

復刻版

## 龍溪ヨーロッパ・コレクション

Ryukei Reprint Series: Bibliotheca Europaea Classica

古来、中国の学問に志す者は、まず四書五經に精通する必要があった。その理由の第一はこれらの古典が聖賢の叡智を凝縮したもので、人類のあらゆる行動の基準とされたことであり、第二は後世の学術、文芸を照射し、薫染し、典拠となったことである。さらに史記・漢書などの歴史も人間の運命に対する洞察を豊かに含むものとして、古典としての扱いを受けるようになった。歴代の大儒・文豪・詩宗はこれらの古典を自らの血肉とし、典拠に則りながら、なおかつ個性を表現することに努めたのである。やがて彼らの傑作はまた新しい古典となり、典拠となって行き、ここに古典の伝統と言うべきものが形成された。しかし伝統に従うことは決して因循ばかりではなかった。少年時代から習熟している古典の文体や詩型を媒体として、容易に自分の思想や詩情を表現できたからである。典拠を巧みに用いれば含蓄のある文章をも綴り得た。この事情はわが国でもほぼ同様で、中国古典の深い知識がなければ記紀以下の史書も、懐風藻・本朝文粹などの詩文集も、その滋味を掬うことは不可能であった。また万葉・古今の伝統を疎かにしては、後世の連歌・俳諧に親しむことも出来なかった。

このような古典の伝統はヨーロッパの学芸にもそのまま当てはまる。叙事詩を例にとればホメロス、ウェルギリウス、ダンテ、ミルトンらの大詩人は瓶の水をそのまま別の器に移すように師資相承したもので、先達を熟知しなければ、後進を理解し、その妙味を汲み取ることが出来ない。抒情詩の場合でもホラティウスを知らなければルネサンスのペトラルカは分からず、ペトラルカを疎かにしては近世のソネットも興味が半減することであろう。このような伝統は哲学、歴史、戯曲、弁論、法律、経済などの分野においても認められるものであるが、現代日本の西洋学にはこの伝統を探る細心精緻さが往々欠けているように思われる。

復刻版『龍溪ヨーロッパ・コレクション』はこの間隙を埋めようとするもので、ゲートの言う「ごっちゃ煮」jein Ragoutであり、希・拉・伊その他の原典、それらの翻訳、風俗史、文学史など、古典の伝統を理解する縁となる、さまざまな香りと味わいを有する著作を集め、簡明な解題を添えて提供するものである。いずれも稀覯書で、わが国の大学や図書館では容易に見られぬものを利用し易い形で紹介することを目指している。是非座右に備えて研究の一助とされたい。

The Poems of Ossian, translated by J. Macpherson, London 1825

『オシアン詩集』 ジェームズ・マクファーソン 英訳

B7判変形 挿画、扉画  
ISBN 978-4-8447-6420-5

A5判 460頁・解題34頁 計494頁 本体価35,000円  
(97 刊)

以降、中止